

# 保育所の自由遊びで観察される基本的な動き

— 担任保育者による評定からの検討 —

## Fundamental movements observed during free play in nursery schools

- Consideration based on evaluation by homeroom childcare worker -

長野 康平

NAGANO Kohei

### Abstract

The purpose of this study was to examine age differences in fundamental movements observed during free play among young children at nursery school.

The status of fundamental movements observed during free play of young children evaluated by the childcare worker in charge differed depending on the type of fundamental movements, both in terms of the percentage of children performing them in the class and the frequency with which they were observed in the class. Basically, 3-year-olds experienced lower rates and frequencies of fundamental movements than 4-and 5-year-olds. Regarding the percentage of fundamental movements, there was a difference between the grades in “handstand”, “bouncing”, “jumping”, “push”, and “hitting”. Regarding the frequency of fundamental movements, there was a difference between the grades in “handstand”, “bouncing”, “jumping”, “climbing”, “push”, “grasp”, “hitting”, “catching”, “passing”, “throwing”, “kicking”, “pulling”, and “knock down”. These movements are characteristic of each developmental stage, and can be considered to be the movements that characterize each type of play.

### I 緒言

小学生以降だけではなく、幼児期からの運動能力の低下が指摘されるようになって久しい（穂丸、2003；森ほか、2010）。中村ほか（2011）は、1985年と比較して2007年の幼児は未熟な基本的動作の動作様式の割合が高いことを報告している。このように幼児期の子どもにおいては、体力テストのパフォーマンスに代表される量的な低下とともに、基本的動作の動作様式に代表される質的な低下も指摘されている。このような状況の中、「幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切」とする幼児期運動指針（文部科学省、2012）が策定され、そのポイントとして、『①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること』『②楽しく体を動かす遊ぶ時間を確保すること』『③発達の特性に合った遊びを提供すること』の3つが挙げられている。さらに、日本学術会議(2017)

においても、『①子どもの動きが最も発達する幼児期から児童期に、全ての子どもが適切な動きを獲得できるように、教育行政は組織的に取り組むべきである』『②子どもの動きに関する基礎研究の推進に取り組むべきである』といった提言がなされており、幼児期における基本的動作の重要性が強調されている。このように近年の我が国では、幼児期における運動への関心が高まっており、幼児期の運動においては、特に基本的動作に着目することの重要性が指摘されている。

このような幼児期における運動に対する関心の変化は、保育・幼児教育にも反映されている。平成30年改訂の幼稚園教育要領解説（文部科学省，2018）、保育所保育指針（厚生労働省，2018）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省，2018）では、これまで扱われてこなかった「多様な動き」<sup>注1)</sup>が取り扱われるようになり、幼稚園教育要領解説（文部科学省，2018）には、領域「健康」の「ねらい及び内容」の改訂の要点として、『(前略)「幼児期運動指針」(平成24年3月文部科学省)などを踏まえ、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすることを「内容の取扱い」に新たに示した。(後略)』と明記されている。さらに、領域「健康」における「内容の取扱い」においては、『(2) 様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。(中略) また、様々な遊びの中で、多様な動きに親しむことは幼児期に必要な基本的な動きを身に付ける上で大切である。例えば、鬼遊びでは走るだけでなく、止まったりよけたり、跳ぶ動作をすることもあるし、大型積み木を用いた遊びでは押したり積んだり、友達と一緒に運んだりといった動きをすることがある。教師は、遊びの中で幼児が多様な動きが経験できるよう工夫することが大切である。』と、保育の中で基本的な動きを経験していくことの必要性が明記されている。しかし、基本的な動きの経験は、平成30年度改訂3法令の領域「健康」の要点ではあるが、基本的な動きに関する記述は不明瞭であり、その解釈には課題が残る。

この基本的動作の発達の方向性については、運動の仕方が上手くなっていく「洗練化」と、いろいろな動きを獲得する「多様化」の二つの方向性がある。洗練化については、中村ほか（2011）に代表されるように観察的な評価法によって段階的に捉える方法が知られている。一方で、多様化については、子どもの遊び場を直接観察することで、その子どもがどのような動きをどのくらい経験しているのかといった状況を把握する直接観察法による方法が用いられてきた（例えば、油野，1988；長野・中村，2021）。この多様化に関する幼児を対象とした研究としては、5歳児の保育園と公園での自由遊びにおける基本的な動きの出現状況を比較（長野ほか，2019）や、4歳児の自由遊びにおける基本的な動きを身体活動量の違いにより比較（篠原ほか，2020）が知られている。

しかし、これまでの基本的動作の多様化を捉えた直接観察法による測定は、測定に膨大な時間を要するため、多数の対象者を捉えるには限界がある。一方で、評価の妥当性では直接観察法に劣るものの、より簡便に多数の子どもを評価するためには、質問紙による方法が有益である。吉田ほか（2015）や吉田（2016）は、質問紙を用いて、担任保育者にクラスの子どもの基本的動作の多様化の状況を評価している。吉田ほか（2015）は、66の幼稚園と43の保育所の担任保育者526名を対象に、経験する基本的動作の頻度と運動能力との関連を学年別に検討しているが、この研究からはどの年齢でどの動きがどの程度多いのかといった情報を把握することはできない。また吉田（2016）は、幼稚園1園と小学校1校を対象に、2年間にわたる基本的動作の経験の状況を経時的な変化によって捉えているが、対象施設数に研究の限界がある。幼児期の運動遊び場面における基本的動作を考えていくためには、この分野に関する研

究のさらなる蓄積が求められる。

発達の段階によって、遊びの種類は異なる。年齢の違いによる遊びの差異が経験する基本的動作に影響することは容易に想像することができるが、この点について言及した研究はなされていない。多数の保育者を対象に、それぞれの学年の基本的動作の違いを検討することができれば、より明解に基本的動作の発達段階による違いの特徴を把握することができる。これらを踏まえて本研究では、保育所における幼児の自由遊びで観察される基本的動作の年齢による違いを検討することを目的とした。

## II 方法

### 1. 対象者

山梨県南アルプス市の全保育所 19 施設の担任保育士 287 名のうち、回答の得られた 248 名 (86.4%) の中から、3 歳以上児を担当していた保育者 89 名 (3 歳児 : 35 名, 4 歳児 : 26 名, 5 歳児 : 28 名) を解析に用いた。回答者の内訳は、性別は男性 : 6 名, 女性 : 83 名であった。また年代は、20 代 : 31 名, 30 代 : 27 名, 40 代 : 25 名, 50 代 : 6 名であった。そして保育経験年数は、1 年目 : 0 名, 2 ~ 5 年 : 20 名, 6 ~ 10 年 : 24 名, 11 ~ 20 年 : 27 名, 21 ~ 30 年以上 : 15 名, 31 年以上 : 1 名, 無回答 : 2 名であった。なお、対象の保育所では外部指導者などによる特別な運動指導は実施されていなかった。

### 2. 項目

#### 1) 基本的動作の設定

基本的動作は、石河ほか (1980) が分類した 84 種類, Gallahue and Ozmun (1998) が分類した 23 種類をもとに、中村 (2011) が分類した 36 種類の基本的動作 (平衡系 9 種類, 移動系 9 種類, 操作系 18 種類) を設定した。

#### 2) 基本的動作の評価方法

吉田ほか (2015) の方法を参考に、担任保育者が評価する形で、幼児の自由遊びにおける基本的動作の割合と頻度の評定を依頼した。評定の方法は、「あなたのクラスの子どもは最近 1 週間の間にどのような動きをしていますか」といった問いに対して、「割合」と「頻度」について、それぞれ設定した動きについて質問紙によって評定を求めた。なお、基本的動作についてはより具体的なイメージが持てるように、別途イラスト入りの用紙も配布して参考にするように配慮した。担任保育者の評定は、割合では「どの子にもまったく見られない (1 点)」「一部の子に見られた (2 点)」「半数くらいの子に見られた (3 点)」「多くの子に見られた (4 点)」「ほとんどすべての子に見られた (5 点)」の 5 段階とし、頻度では「まったく見られない (1 点)」「見られた日が 1 ~ 2 日あった (2 点)」「見られた日が 3 ~ 4 日あった (3 点)」「ほとんど毎日見られた (4 点)」の 4 段階とした。なお、すべての評価は 2015 年 1 ~ 2 月に実施した。

### 3. 統計解析

自由遊びで観察される基本的動作の割合と頻度に関する年齢間の比較には、一元配置分散分析を用い、多重比較検定には Bonferroni 法を用いた。なお本研究におけるすべての解析は IBM SPSS Statistics 25 を用い、統計学的有意水準を 5% 未満に設定した。

4. 倫理的配慮

調査に先立ち、協力施設の代表者に研究の趣旨説明を行い、対象者である保育者には書面上で研究の趣旨および調査への同意、データの取扱い等について十分に説明した。

III 結果

担任保育者が評価した幼児の自由遊びで観察される基本的動作の割合と頻度を表1に示した。「あるく」「はしる」では割合の「ほとんどすべての子に見られた」、および頻度の「ほとんど毎日見られた」が100%を示した。一方で、「さかだちする」「うく」「およぐ」については、割合では「どの子にもまったく見られない」は高値を示し、頻度では「まったく見られない」が高値を示したことから、これ

表1 担任保育者の評価による幼児の自由遊びで観察される基本的動作の割合・頻度

	割合					頻度			
	どの子にも まったく 見られない	一部の子に 見られた	半数くらい の子に 見られた	多くの子に 見られた	ほとんど すべての子に 見られた	まったく 見られない	見られた日 1~2日あった	見られた日 3~4日あった	ほとんど 毎日見られた
たつ（しゃがむ・すわる）	0.0	0.0	0.0	2.2	97.8	0.0	0.0	0.0	100.0
おきる（ねる）	0.0	7.9	2.2	7.9	82.0	0.0	7.9	5.6	86.5
まわる（ころがる）	8.0	26.1	12.5	12.5	40.9	7.9	32.6	21.3	38.2
くむ（つみかさなる）	10.8	45.8	20.5	6.0	16.9	15.3	48.2	24.7	11.8
わたる	4.8	32.5	20.5	25.3	16.9	4.7	41.2	36.5	17.6
ぶらさがる	5.7	34.5	23.0	18.4	18.4	5.7	37.9	31.0	25.3
さかだちする	79.5	19.3	1.1	0.0	0.0	81.4	16.3	2.3	0.0
のる	27.3	18.2	15.9	18.2	20.5	29.5	25.0	26.1	19.3
うく	92.6	2.5	0.0	4.9	0.0	91.4	2.5	0.0	6.2
あるく（ふむーとまる）	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
はしる（おいかける・にげる）	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
はねる（スキップ・ステップ）	1.1	10.1	1.1	14.6	73.0	1.1	11.2	11.2	76.4
すべる	12.5	22.7	18.2	18.2	28.4	11.5	39.1	17.2	32.2
とぶ（とびこす）	3.4	8.0	11.4	29.5	47.7	3.4	15.9	27.3	53.4
のぼる（おりる）	4.5	35.2	25.0	21.6	13.6	5.7	38.6	26.1	29.5
はう	11.5	39.1	13.8	13.8	21.8	11.5	49.4	25.3	13.8
くぐる（はいる）	4.5	31.8	17.0	26.1	20.5	5.8	44.2	33.7	16.3
およぐ（もぐる）	91.5	3.7	2.4	0.0	2.4	92.6	2.5	2.5	2.5
もつ（かつぐ・おろす）	1.1	0.0	1.1	6.8	90.9	1.1	1.1	5.7	92.0
ささえる	11.5	8.0	14.9	20.7	44.8	11.4	19.3	23.9	45.5
はこぶ（うごかす）	1.1	3.4	1.1	10.2	84.1	1.1	3.4	7.9	87.6
おす（おしだす）	1.1	13.6	21.6	25.0	38.6	1.1	29.2	29.2	40.4
おさえる（もたれる）	11.6	37.2	18.6	11.6	20.9	12.6	40.2	23.0	24.1
こぐ	47.1	13.8	13.8	13.8	11.5	47.7	22.7	15.9	13.6
つかむ（つかまえる）	0.0	12.6	6.9	19.5	60.9	0.0	14.6	22.5	62.9
あてる（ぶつける）	10.5	38.4	20.9	20.9	9.3	13.6	52.3	23.9	10.2
とる（とめる・うける）	3.4	24.1	21.8	28.7	21.8	2.3	38.6	28.4	30.7
わたす	7.0	18.6	14.0	29.1	31.4	8.0	26.4	31.0	34.5
つむ（つみあげる・くずす）	8.0	24.1	19.5	23.0	25.3	6.8	37.5	28.4	27.3
ほる（けずる）	14.8	25.0	23.9	22.7	13.6	14.8	29.5	36.4	19.3
ふる（ふりまわす）	27.1	36.5	18.8	5.9	11.8	25.6	48.8	16.3	9.3
なげる（なげあげる）	3.4	16.1	20.7	33.3	26.4	3.4	28.7	35.6	32.2
うつ（たたく）	58.8	29.4	7.1	4.7	0.0	63.2	29.9	4.6	2.3
ける	2.2	30.3	33.7	23.6	10.1	1.1	39.3	29.2	30.3
ひく（ひっぱりおこす・ひっぱる）	16.1	41.4	18.4	10.3	13.8	18.4	47.1	19.5	14.9
たおす（おしたおす）	20.9	39.5	17.4	9.3	12.8	23.9	40.9	26.1	9.1

※表中の数値は、それぞれの回答の割合を示す

らの動きは経験しにくい状況であることが示された。またこれら以外の動きにおいても、その動きによって、経験の状況にばらつきが見られた。

次に、担任保育者が評価した幼児の自由遊びで観察される基本的動作の割合と頻度を年齢別に比較した結果をそれぞれ表2・3に示した。幼児の自由遊びで観察される基本的動作の割合の年齢差については、「さかだちする」「はねる」「とぶ」「おす」「あてる」で年齢間に差異が認められた。幼児の自由遊びで観察される基本的動作の頻度の年齢差については、「さかだちする」「はねる」「とぶ」「のぼる」「おす」「つかむ」「あてる」「とる」「わたす」「なげる」「ける」「ひく」「たおす」で年齢間に差異が認められた。

#### IV 考察

本研究では、保育所における幼児の自由遊びで観察される基本的動作の年齢による違いを検討することを目的とした。そのためにまず、担任保育者の評定による日常的な自由遊びで観察される基本的動作の状況を確認した(表1)。その結果、経験しやすい動き(例えば、「あるく」「はしる」と、経験しに

表2 担任保育者の評価による幼児の自由遊びで観察される基本的動作の割合の年齢差

	3歳児	4歳児	5歳児	F値	p	多重比較
たつ(しゃがむ・すわる)	4.94 (0.24)	5.00 (0.00)	5.00 (0.00)	1.581	0.212	
おきる(ねる)	4.80 (0.58)	4.73 (0.83)	4.36 (1.13)	2.282	0.108	
まわる(ころがる)	3.20 (1.47)	3.73 (1.43)	3.74 (1.40)	1.463	0.237	
くむ(つまかさなる)	2.42 (0.94)	2.71 (1.33)	3.12 (1.45)	2.286	0.108	
わたる	2.78 (1.01)	3.40 (1.19)	3.42 (1.33)	2.850	0.064	
ぶらさがる	2.88 (1.20)	3.08 (1.35)	3.37 (1.11)	1.201	0.306	
さかだちする	1.00 (0.00)	1.31 (0.55)	1.39 (0.50)	8.014	0.001	3歳児<4歳児, 5歳児
のる	2.91 (1.44)	2.73 (1.64)	2.93 (1.51)	0.141	0.869	
うく	1.03 (0.18)	1.17 (0.65)	1.33 (0.96)	1.489	0.232	
あるく(ふむ-とまる)	5.00 (0.00)	5.00 (0.00)	5.00 (0.00)	-	-	
はしる(おいかける・にげる)	5.00 (0.00)	5.00 (0.00)	5.00 (0.00)	-	-	
はねる(スキップ・ステップ)	4.09 (1.36)	4.73 (0.53)	4.75 (0.65)	4.833	0.010	3歳児<4歳児, 5歳児
すべる	3.06 (1.58)	3.27 (1.28)	3.54 (1.32)	0.873	0.421	
とぶ(とびこす)	3.71 (1.34)	4.42 (0.86)	4.30 (0.82)	3.921	0.023	3歳児<4歳児
のぼる(おりる)	2.69 (1.05)	3.31 (1.05)	3.26 (1.26)	3.020	0.054	
はう	2.82 (1.31)	3.00 (1.36)	3.07 (1.49)	0.267	0.766	
くぐる(はいる)	3.31 (1.16)	3.23 (1.42)	3.22 (1.19)	0.052	0.949	
およぐ(もぐる)	1.06 (0.25)	1.33 (1.13)	1.19 (0.56)	0.983	0.379	
もつ(かつぐ・おろす)	4.94 (0.24)	4.81 (0.49)	4.82 (0.77)	0.594	0.555	
ささえる	3.47 (1.48)	4.12 (1.34)	3.89 (1.28)	1.704	0.188	
はこぶ(うごかす)	4.71 (0.67)	4.81 (0.63)	4.67 (0.96)	0.236	0.790	
おす(おしだす)	3.46 (1.20)	4.19 (0.94)	4.07 (1.04)	4.220	0.018	3歳児<4歳児
おさえる(もたれる)	2.56 (1.24)	3.32 (1.41)	3.04 (1.34)	2.521	0.086	
こぐ	2.27 (1.38)	2.23 (1.66)	2.36 (1.42)	0.052	0.949	
つかむ(つかまえる)	3.94 (1.23)	4.50 (0.91)	4.52 (0.85)	3.154	0.048	
あてる(ぶつける)	2.42 (1.12)	2.85 (1.12)	3.22 (1.15)	3.726	0.028	3歳児<5歳児
とる(とめる・うける)	3.24 (1.18)	3.35 (1.23)	3.70 (1.10)	1.261	0.289	
わたす	3.30 (1.36)	3.50 (1.27)	4.04 (1.16)	2.569	0.083	
つむ(つみあげる・くずす)	3.12 (1.23)	3.65 (1.32)	3.30 (1.38)	1.260	0.289	
ほる(けずる)	2.94 (1.26)	3.15 (1.26)	2.78 (1.34)	0.571	0.567	
ふる(ふりまわす)	2.12 (1.11)	2.58 (1.45)	2.54 (1.27)	1.198	0.307	
なげる(なげあげる)	3.41 (1.08)	3.73 (1.28)	3.81 (1.08)	1.077	0.345	
うつ(たたく)	1.48 (0.62)	1.40 (0.65)	1.85 (1.10)	2.371	0.100	
ける	2.91 (0.89)	2.88 (1.21)	3.50 (0.88)	3.507	0.034	
ひく(ひっぱりおこす・ひっぱり)	2.42 (1.32)	2.77 (1.27)	2.79 (1.20)	0.795	0.455	
たおす(おしたおす)	2.15 (1.15)	2.88 (1.45)	2.67 (1.18)	2.695	0.073	

※表中の数値は、平均値(標準偏差)を示す

表3 担任保育者の評価による幼児の自由遊びで観察される基本的動作の頻度の年齢差

	3歳児	4歳児	5歳児	F値	p	多重比較
たつ (しゃがむ・すわる)	4.00 (0.00)	4.00 (0.00)	4.00 (0.00)	—	—	
おきる (ねる)	3.89 (0.40)	3.85 (0.54)	3.61 (0.74)	2.084	0.131	
まわる (ころがる)	2.66 (1.06)	2.92 (0.93)	3.18 (0.98)	2.129	0.125	
くむ (つみかさなる)	2.12 (0.78)	2.32 (0.80)	2.59 (1.01)	2.203	0.117	
わたる	2.47 (0.72)	2.77 (0.76)	2.81 (0.96)	1.589	0.210	
ぶらさがる	2.68 (0.88)	2.76 (1.01)	2.86 (0.85)	0.303	0.739	
さかだちする	1.00 (0.00)	1.21 (0.41)	1.46 (0.64)	9.205	0.000	3歳児<5歳児
のる	2.44 (1.11)	2.15 (1.12)	2.43 (1.10)	0.591	0.556	
うく	1.00 (0.00)	1.30 (0.88)	1.37 (0.97)	2.147	0.124	
あるく (ふむ-とまる)	4.00 (0.00)	4.00 (0.00)	4.00 (0.00)	—	—	
はしる (おいかける・にげる)	4.00 (0.00)	4.00 (0.00)	4.00 (0.00)	—	—	
はねる (スキップ・ステップ)	3.31 (0.96)	3.85 (0.37)	3.82 (0.48)	6.004	0.004	3歳児<4歳児, 5歳児
すべる	2.65 (1.18)	2.56 (0.92)	2.89 (0.99)	0.738	0.481	
とぶ (とびこす)	2.97 (1.04)	3.60 (0.71)	3.46 (0.58)	4.974	0.009	3歳児<4歳児
のぼる (おりる)	2.44 (0.86)	3.08 (0.84)	2.96 (1.00)	4.377	0.016	3歳児<4歳児
はう	2.29 (0.76)	2.54 (0.95)	2.44 (0.93)	0.600	0.551	
くぐる (はいる)	2.56 (0.70)	2.63 (1.01)	2.64 (0.83)	0.087	0.917	
およぐ (もぐる)	1.03 (0.18)	1.26 (0.86)	1.19 (0.56)	1.141	0.325	
もつ (かつぐ・おろす)	3.85 (0.44)	4.00 (0.00)	3.82 (0.61)	1.277	0.284	
ささえる	2.74 (1.11)	3.23 (1.03)	3.21 (0.96)	2.288	0.108	
はこぶ (うごかす)	3.71 (0.62)	3.96 (0.20)	3.82 (0.61)	1.620	0.204	
おす (おしだす)	2.66 (0.87)	3.35 (0.75)	3.39 (0.74)	8.554	0.000	3歳児<4歳児, 5歳児
おさえる (もたれる)	2.29 (0.97)	2.80 (1.00)	2.75 (0.97)	2.507	0.088	
こぐ	1.94 (1.04)	1.85 (1.16)	2.07 (1.12)	0.286	0.752	
つかむ (つかまえる)	3.14 (0.88)	3.69 (0.47)	3.71 (0.60)	6.922	0.002	3歳児<4歳児, 5歳児
あてる (ぶつける)	1.97 (0.63)	2.31 (0.84)	2.71 (0.90)	6.911	0.002	3歳児<5歳児
とる (とめる・うける)	2.47 (0.75)	2.81 (0.85)	3.43 (0.79)	11.355	0.000	3歳児<4歳児<5歳児
わたす	2.58 (0.94)	2.85 (0.97)	3.39 (0.83)	6.177	0.003	3歳児<5歳児
つむ (つみあげる・くずす)	2.56 (0.86)	2.88 (0.91)	2.89 (1.03)	1.311	0.275	
ほる (けずる)	2.43 (0.98)	2.80 (0.82)	2.64 (1.06)	1.119	0.331	
ふる (ふりまわす)	1.79 (0.73)	2.25 (0.99)	2.32 (0.90)	3.398	0.038	
なげる (なげあげる)	2.58 (0.66)	2.96 (0.92)	3.43 (0.84)	8.588	0.000	3歳児<5歳児
うつ (たたく)	1.35 (0.49)	1.40 (0.76)	1.64 (0.83)	1.480	0.234	
ける	2.57 (0.70)	2.77 (0.91)	3.39 (0.79)	8.790	0.000	3歳児<4歳児<5歳児
ひく (ひっぱりおこす・ひっぱる)	1.85 (0.76)	2.69 (1.05)	2.50 (0.84)	7.676	0.001	3歳児<4歳児, 5歳児
たおす (おしたおす)	1.85 (0.86)	2.50 (0.99)	2.36 (0.78)	4.645	0.012	3歳児<4歳児

※表中の数値は、平均値(標準偏差)を示す

くい動き(例えば、「さかだちする」「うく」「およぐ」)があることが明らかになった。また、上記に示されなかった動きについて、その割合に特化してみると、「ほとんどすべての子に見られた」動きが75%以上であるものは、「たつ」「おきる」「もつ」「はこぶ」であり、50-75%のものは、「はねる」「つかむ」、25-50%のものは、「まわる」「すべる」「とぶ」「ささえる」「おす」「わたす」「つむ」「なげる」であり、それ以外の動きについては、「ほとんどすべての子に見られた」割合は25%未満であった。このような結果は、日常的な自由遊びで行われる遊びにおいて、共通して経験できる動きと経験できない動きがあることを示している。

次に、保育所における幼児の自由遊びで観察される基本的動作の年齢による違いを検討するために、担任保育者の評価による日常的な自由遊びで観察される基本的動作の割合と頻度を年齢間で比較した(表2・3)。割合で年齢間に差の認められた動きは、「さかだちする」「はねる」「とぶ」「おす」「あてる」であり、頻度で年齢間に差の認められた動きは、「さかだちする」「はねる」「とぶ」「のぼる」「おす」「つかむ」「あてる」「とる」「わたす」「なげる」「ける」「ひく」「たおす」であった。またこれらの動きは、

3歳児に比して4歳児・5歳児ともに、または3歳児に比して4歳児、あるいは5歳児が高値を示す結果であった。換言すれば、3歳児に比べて4歳児・5歳児の方が遊びを通じて経験できる動きの種類が多く、より多くの子がさまざまな動きを経験できるようになる。このような割合・頻度において、年齢間によって違いが見られた基本的動作は、それぞれの発達段階を特徴づける動きである可能性がある。このような違いがみられた要因としては、年齢によって遊びの内容に違いがあることが考えられる。例えば、5歳児の特徴的な動きは、複雑なボール操作を伴う「あてる」「とる」があげられる。実際の様子を観察したわけではないが、調査時期が1～2月であったことを考慮すれば、所庭でドッチボールを行っていた中で、「あてる」や「とる」といった動きを経験していた可能性がある。自由遊びの内容と経験できる動きを捉えた篠原（2019）は、4歳児の自由遊びで、氷鬼、キャッチボール、走り回る、滑り台などの遊びの内容を報告しており、遊びの内容に関連する動きが多く出現したことを報告している。このように、自由遊びにおける遊びの内容は、経験できる基本的動作と関連するようである。一方で、割合・頻度ともに、年齢間で差異がみられなかった基本的動作は、それぞれの発達段階で共通する、または獲得できていない動きである可能性がある。

これまでの結果を踏まえれば、年齢によって経験できる動きに差異があるため、その差異を少なくする支援策を検討することが重要に思える。しかし、このような差異があつてしかるべきと捉えれば、対症的に経験できる基本的動作の年齢間の差異を少なくするような強制的な運動（あるいは運動遊び）を実施するよりは、それぞれの発達段階で必要な動きの経験をすることの方が重要であろう。本研究の結果は、あくまでも、それぞれの年齢における基本的動作の特徴の差異を捉えたに過ぎない。また、調査時期も1～2月であり、子どもの遊びに季節性があることも踏まえれば、より多くの時点で調査を実施する（例えば、四季に応じて調査を実施する）必要もあるであろう。そのことで初めて、幼児がそれぞれの発達段階で経験できる基本的動作が把握することができる。このような知見を踏まえて、長期的な期間（保育所に在籍する3年間や1年間、あるいは四季や学期）で幼児の基本的動作を保証していくような視点もこれからは必要になってくるであろう。

## V 結論

担任保育者の評価する保育所における幼児の自由遊びで観察される基本的動作の状況は、クラスで行っている子どもの割合・クラスで観察された頻度ともに、基本的動作の種類によって異なる傾向にあることが明らかになった。基本的には、3歳児は4歳児・5歳児に比べて経験している基本的動作の割合・頻度ともに低値を示しており、割合では「さかだちする」「はねる」「とぶ」「おす」「あてる」で、頻度では「さかだちする」「はねる」「とぶ」「のぼる」「おす」「つかむ」「あてる」「とる」「わたす」「なげる」「ける」「ひく」「たおす」において差異が認められた。これらはそれぞれの発達段階の特徴的な動きであり、それぞれの遊びを特徴づける動きであると捉えられる。

## 注

- 1) 文書によって「基本的動作」は「多様な動き」や「基本的な動き」、「基礎的運動パターン」と表記されるが基本的には同義である。

## 文献

- 1) 油野利博. 幼児の自由遊び中における動きの種類について. 鳥取大学教育学部研究報告, 30 (2), 263-273.1988
- 2) 穂丸武臣. 幼児の体格・運動能力の30年間の推移とその問題. 子どもと発育発達, 1, 128-132. 2003
- 3) Gallahue, D. L. and Ozmun, J. C. "Understanding motor development: Infant, Children, Adolescents, Adults" McGraw-Hill, 208-264. 1988
- 4) 石河利寛・栗本闊夫・勝部篤美・近藤充夫・前川峯雄・松田岩男・森下はるみ・清水達雄・末利博・高田典衛. 幼稚園における体育カリキュラムの作成に関する研究Ⅰ, カリキュラムの基本的な考え方と予備的調査の結果について, 体育科学, 8, 150-155.1980
- 5) 厚生労働省. 保育所保育指針解説. フレーベル館. 2018
- 6) 文部科学省. 幼稚園教育要領解説. フレーベル館. 2018
- 7) 森司朗・杉原隆・吉田伊津美・筒井清次郎・鈴木康弘・中本浩揮・近藤充夫. 2008年の全国調査からみた幼児の運動能力, 体育の科学, 60, 56-66.2010
- 8) 内閣府・文部科学省・厚生労働省. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館. 2018
- 9) 長野康平・浅川孝太・倉茂花苗・中村和彦. 保育園と公園での自由遊びにおける身体活動量と発現する基本的動作: 保育園と公園での自由遊びにおける身体活動量と基本的動作, 日本幼少児健康教育学会誌, 4, 71-80. 2019
- 10) 長野康平・中村和彦. 幼児の運動遊び場面における基本的動作と身体活動量の特徴: 異なる遊び環境に着目して. 発育発達研究, 90: 46-56. 2021
- 11) 中村和彦. 運動神経がよくなる本. 株式会社マキノ出版, 2011
- 12) 中村和彦・武長理栄・川路昌寛・川添公仁・篠原俊明・山本敏之・山縣然太郎・宮丸凱史. 観察的評価法による幼児の基本的動作様式の発達, 発育発達研究, 51, 1-18. 2011
- 13) 日本学術会議. 子どもの動きの健全な育成をめざして: 基本的動作が危ない. <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t245-1.pdf> (参照日 2023年10月31日) 2017
- 14) 篠原俊明. 自由遊びにおける幼児の運動経験の実態, Leisure & Recreation (自由時間研究), 43 (1), 28-34. 2019
- 15) 篠原俊明・長野康平・中村和彦. 園庭での自由遊びにおける基本的な動きの特徴, 日本幼少児健康教育学会誌, 6 (1), 11-20. 2020
- 16) 吉田伊津美・森司朗・筒井清次郎・鈴木康弘・中本浩揮. 保育者によって観察された基礎的運動パターンと幼児の運動能力との関係, 発育発達研究, 68, 1-9. 2015
- 17) 吉田伊津美. 幼稚園の運動遊びおよび小学校低学年体育で観察される基礎的運動パターン, 発育発達研究, 70, 48-54. 2016

長野 康平 (幼児教育科)  
(受理 2023年10月31日)